

大阪湾北西部沿岸より観察した蜃気楼近況

齊藤真也

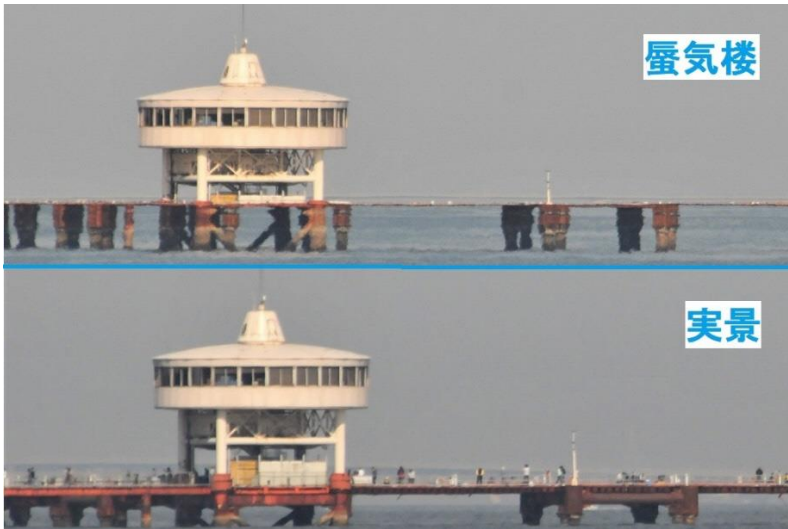
これまでに大阪湾で観察された上位蜃気楼の観察報告は多くはないものの毎年春には確実に観察されてきたものです。その内容は長谷川学芸員の報告にもあるように、須磨の例を除いて大阪府南部および大阪市沿岸部の南港野鳥園からの観察が主体でした。これは観察者が大阪府在住であること、府内における観察適地を優先事項としたためですが、蜃気楼観察を安全に見易く他人に伝えるという観点、適度な観察対象物が眼前にバランスよく広がるといった観点からはやや不満の残る観察地点でありました。

そこで今回新たな観察地点として注目したのが、大阪湾の蜃気楼観察時に目安となる変形の観察されやすい巨大構造物、明石海峡大橋周辺に目をつけ、実際に周辺地域からの観察を実施したので報告します。

観察エリア図



赤色のラインで表示した部分が、神戸市須磨、垂水区、明石市、淡路市岩屋。



神戸市垂水区塩屋漁港東岸下の海岸から見た須磨海づり公園の棧橋 4月20日



淡路市岩屋にある県民サンビーチより見たマリニピア神戸の建物変形 5月1日

以上のようにこの周辺からの観察では近距離で鮮明な蜃気楼像が容易に観察され、対象物までの距離も変化に富んでいて、観察地として理想的です。